指定管理者評価委員会　総合評価票

施設名	道の駅　九頭竜
指定管理者名	福井和泉リゾート株式会社
指定期間	令和7年4月1日　～　令和10年3月31日　（3年間）
評価対象期間	令和7年4月1日　～　令和8年3月31日　（1年目）

	評価項目	ウェイト	**評価点数**
1	実施体制	40%	**4.8**
2	サービス等の内容や水準	40%	**4.8**
3	収支等	20%	**3.0**
総合点		100%	**4.4**

【総合評価（総合点平均）】

S（4.5以上～5.0）：優良＝協定書等の基準を完全に遵守し、その水準を大きく上回る内容である

A（3.5以上～4.5未満）：良好＝協定書等の基準を遵守し、その水準を上回る良い内容である

B（3.0以上～3.5未満）：標準＝協定書等の基準を概ね遵守し、その基準に沿った内容である

C（2.0以上～3.0未満）：課題有＝協定書等の基準を概ね遵守しているが、内容の一部に課題がある

D（0.0～2.0未満）：要改善＝協定書等の基準を遵守していない部分がある、又は改善が必要な内容がある

総合評価	
A （4.4）	道の駅九頭竜は、直売所をふれあい会館内へ移転し、冬季営業や営業時間の延長を実施するなど、利用者の利便性向上に向けた取組が積極的に行われている。また、直売所の移転は生産者の販売機会の確保にもつながっており、地域農業の振興にも貢献している。 令和7年3月の国道158号斜面崩壊による岐阜県境の通行止めの影響軽減を図るため、地域事業者の販路確保に努めるなど、地域に寄り添った運営が行われていた。また、地域ニーズに応じた商品の提供に取り組み、買い物弱者への支援など地域住民の生活を支える役割を果たしている。こうした取組から、地域を支える拠点としての機能が十分に発揮されており、実施体制について高く評価できる。 サービス面では、自主事業である九頭竜マルシェを継続的に実施し、地域のにぎわい創出や交流人口の拡大に寄与するとともに、地域雇用の確保にも貢献しており、地域振興の拠点としての役割を果たしている。 一方で、収支面については赤字の状況が継続しており、持続可能な施設運営の観点から依然として課題がある。利用者数の確保や売上向上に向けた取組を継続するとともに、高付加価値商品の販売を含めた収益力の向上を図ることが求められる。また、元直売所をはじめとした空きスペースの有効活用を検討し、新たな収益機会の創出につなげることが期待される。今後は近隣観光施設との連携強化や、和泉地区での滞在時間の延長につながる取組を進めるとともに、道の駅九頭竜ならではの魅力ある商品の充実を図ることが期待される。また、令和11年春の中部縦貫自動車道県内全線開通を見据え、中京圏をはじめとする県外利用者への情報発信を強化し、更なる誘客につなげていくことが望まれる。 以上のことから、施設の設置目的の達成に向けた取組が適切に実施されており、指定管理者として良好な管理運営が行われていると評価できる。今後は、外部サイトの口コミ等の情報により、利用者ニーズの把握やサービス向上に努めるとともに、地域ならではの温かなおもてなしを提供することで、「人と人がふれあい温まる場所」となるよう期待する。また、来訪者と地域住民との交流が生まれる魅力ある施設づくりに取り組まれることが望まれる。